



BHUTAN

学校名: 東京都立小平特別支援学校

氏名: 清水 マヤ

[担当教科: 遊びの指導、生活単元学習]

- 実践教科等: 総合的な学習の時間
- 時間数 : 6時間
- 対象生徒 : 肢体不自由校 小学部5学年
- 対象人数 : 8人

[1]単元名

“ブータン”ってどんな国？

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

<本校の教育課程>

- 自立活動を主とする課程・・・自立活動の指導を中心に編成された課程
 - ★ 知的代替課程・・・各教科等を合わせた指導を中心に編成された課程。
- (以下の各単元目標と単元の構成に、該当する教育課程の記号●★を記す。)

- ① ブータンという国に興味を示し、それぞれが主体的に活動に取り組もうとする。●★
- ② 民族衣装や音楽等に触れ、体験して感じたことを顔の表情や発声で表したり、言葉で伝えたりする。●★
- ③ 友達の活動に注目したり、聞いたりして学習を楽しむ。●
- ④ ブータンの生活や文化を通して、あいさつや仲間との協力の大切さに自ら気づく。★

[3]単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1 2	【ブータンという国に興味をもつ】	①ブータンの写真や動画を見る ・ブータンの風景や人、食べ物等具体的な写真や民族ダンスの動画を見て、文化を知る。 ②ブータンのあいさつを知り、使ってみよう ・「クズザンポーラ！（こんにちは）」と一人一人あいさつをする。	CD 写真 動画 マイク 民族衣装 お香	●★提示物や映像に、視線を向けて注目する。 ●★口の動きや発声、発語により、あいさつをする。
3 4 5	【ブータンという国を知る】	①ブータンものしりゲーム ・ブータンの国や文化等の様子についてクイズ形式のゲームをする。 ②民族衣装を着る。 ・ゲームに勝ったチームは民族衣装を着る。	テレビ PC ipad スイッチ 民族衣装 シール マイク お香 ルンタ ついたて ホワイトボード	●★授業の見通しをもって活動する。 ●★友達が活動しているところを視線の動きや応援することで注目する。 ●★体験したことを顔の表情や発声等で表現する。 ★日本と同じところや違いに気づく。 ★自分の考えを自信をもって伝える。
6	【ブラックパネルシアターの鑑賞】	①前回までにやったクイズの復習をする。 ②ブータンの「フレンドシップストーリー」のパネルシアターを鑑賞する。	テレビ PC パネルシアター	●★前回までの授業を思い出す。 ●★シアターに注目し、話を聞く。 ★話を聞いて感想をもち、伝える。

[4]授業の詳細

1・2時限目：【ブータンという国に興味をもつ】

ブータンのあいさつを使って遊ぼう！

- ① ブータンの衣装を着てお香を持って登場。
- ② ブータンの話を映像を見ながら聞く。
- ③ ブータンのあいさつ遊びをする。

⇒ブータン音楽がかかっている間は歩き回り、音楽が止

まったら近くにいる民族衣装を着た ST に「クズザンポーラ！」とあいさつをし、ブータンの言葉に慣れ親しんだ。児童の声が聞こえやすいことや声を出そうとするきっかけ作りのために、マイクを使用した。

いつもの先生が違う格好をしていることに興味をもっている児童が多かった。

ココがポイント！
 ブータンへの興味関心を高めるため、五感で感じられることを大切に。民族衣装での登場（視覚）、お香（嗅覚）、音楽（聴覚）を取り入れた。

3～5時限目：【ブータンという国を知る】

ブータンものしりゲームをしよう！

- ① 一人ずつ「クズザンポーラ！」とあいさつをする。
- ② 2チームに分かれてゲームを行う。
 ⇒個別に出題された課題や質問に取り組み成功・正解すると、チーム全体にブータンシールが配られる。最終的にシールの枚数が多いチームに、民族衣装が着れる権利が与えられる。一方のチームは ipad を使ってその様子を写真撮影する。結果発表の時は盛り上がり活動に注目できていた。

ココがポイント！
 児童の障害実態が幅広いため、重度重複の児童も活躍できることに配慮し、教育課程毎に出題内容を考えた。また、活動の見通しがもてるよう繰り返し同じ活動を行った。

教育課程	「ブータンものしりゲーム」での出題内容	出題する上での留意点
●自立活動を主とする課程	○旗(ルンタ)掲揚 ○ブータンの国旗はどっち？	・比較やマッチングが難しい児童であるため、児童の自発的な動きや表出を引き出すような課題を出題する。
★知的代替課程①	○ブータンの国旗はどっち？ ○ブータン人はどっち？ ○ブータンの食べ物はどっち？ ○ブータンの伝統衣装はどっち？ ○ブータンダンスの動画再生とダンス	・児童にとってわかりやすく達成感を味わえるようなものにする。 ・友達の前での発表を意識できるようにものにする。 ・名称や対象物の比較を中心とした課題を出題する。
★知的代替課程②	○日本とブータンの位置や大きさの比較 ○この国旗はどこの国旗？(マレーシアの国旗) ○これは何だと思う？(ブータン唯一の手旗信号) ○ブータンの食べ物はどっち？	・昨年度学習したマレーシアのことも思い出せるようにする。 ・写真を見てそれは何か考える時間をつくる。

＜ものしりゲーム＞

児童一人ずつ出題をしていく。
 2択の問題で、スイッチを使って答える。



国旗を貼ったスイッチ。
 正解を押すと・・・
 「ピンポーン」と鳴る。
 児童にわかりやすく、
 うけもよかった。



ルンタの掲揚

TVに映ったルンタの写真を見て、当てられた児童が実際どんな物かみんなに見せた。

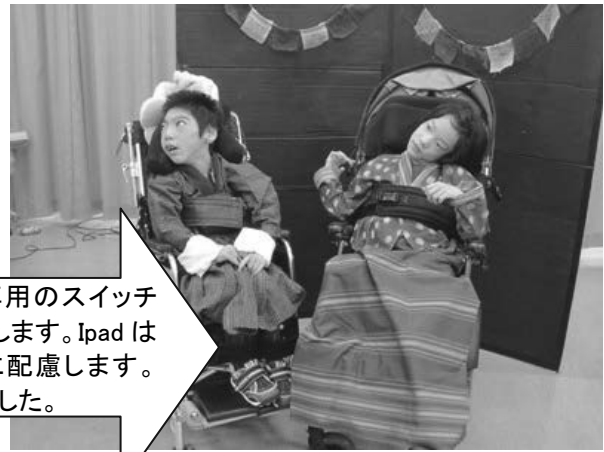
持ちやすいように輪にした紐や、コントラストをはっきりさせるために黒のついたと布を使い、布を引っ張り終えた時のルンタの登場をわかりやすくした。



布を引っ張ってみると・・・
ルンタが出てきた！
みんなに見せられたね。

民族衣装の写真撮影

チーム対抗で、ボタンシールを多くもらったチームが民族衣装を着られる。一方のチームはIpadにつなげた特殊なスイッチを押して写真撮影をする。



撮影係が、専用のスイッチ
を使って撮影します。Ipadは
目線の高さに配慮します。
上手に押せました。



特殊な電源スイッチ
をつなげることで、
児童がシャッターを
押しやすくなる。

6限目:【ブラックパネルシアターの鑑賞】

ブータンのフレンドシップストーリーのブラックパネルシアターを見よう!

- ① 一人ずつ「クズザンポーラ！」とあいさつをする。
- ② 前回までのものしりゲームの振り返りをする。
- ③ フレンドシップストーリーの話をブラックパネルシアターを鑑賞しながら聞く。

⇒ブータンのあらゆるところで見かける動物の絵がある。
この話を友達と協力したり、大切にすることを感じてもらえることをねらいとし行った。

ココがポイント!
視覚的に弱い児童が多いため、部屋を暗くしてブラックライトで光らせるシアターにした。重度重複障害の児童は、これにより注視する様子が見られた。

ブラックパネルシアター



「鳥が落とした種に、うさぎ、猿、象がそれぞれのやり方で木を育てた。協力して大きな木になっている果実を取り、みんなで分け合って食べた」という簡単なストーリーをブラックパネルシアターで鑑賞する。
児童によっては、最後の感想文にこの話で感じたことや、今後がんばることを書いてまとめとした。

<全授業終了後の児童の感想>
日本とブータンの「ちがうところ」と「おなじところ」を書いてもらうと、
・しんごう
・はた
・ごはん
・ふく
が共通してあげられていた。理由を聞いてみると、「(形状等)にほとんどちがうけど、ブータンにもあるんだとおもった。」という感想を聞いて、児童なりの気づきに驚かされた。
ブラックパネルシアターを鑑賞しての感想も書いた。

「ブータンのじゅぎょうをしてみて」

先生が書いてみたいこと!	かんがえたこと
ブータンのあいさつは?	クズザンポーラ
ブータンと日本のちがひ、何がわかったかな?	しんごう、はた、ごはん、ふく、男女
ブータンと日本でおなじところ、何がわかったかな?	しんごう、はた、ごはん、ふく
ものしりクイズをして、わかったこと・すこしいと思ったことは?	自分もはたをもてるぞ、ブータンのふくは日本でもある
パネルシアターを見て、思ったことは?	みんな力をあわせてはたした
ブータンのじゅぎょうをうけて、これからがんばろうと思うことは?	みんなをみんなでおかしくおどろかす、みんなのテーブルをかたむける

[5]児童・生徒の反応/変化

～印象に残る児童の反応や変化～

MT 突然カーテンの後ろから民族衣装を着て、お香を持って登場し、「クズザンポーラ！」とブータンの「こんにちは」を言う。

児童 突然のことにびっくりする児童や笑顔になる児童がいた。

→インパクトがある教材を突然提示したことで興味をひいた。

MT 「クズザンポーラ！」と言いながら、1人ずつマイクを向ける。

児童 授業を重ねる度に発声することが増えた。

→同じ学習内容を繰り返すことで授業の見通しがもちやすくなった。

[6]授業実践の成果と課題

●授業実践のきっかけ●

現在、私は肢体不自由校5年間重度の児童の担当をしてきた。児童たちは発語はないが、見たり、聞いたりすることを大切とした授業の中で人と関わる楽しさや、社会性、コミュニケーション力等を身につけている。小学校では外国活動が導入されたが、特別支援学校ではあまり盛んでなかったり、限られた学級でしか外国文化に触れる機会がないことに疑問をもっていた。重度の児童たちにもわかりやすく提示、経験させることで、「何かいつもと様子が違う?!」や「この音楽好き!」等の児童1人1人の新たな興味を引き出せると考えたため、児童の実態が幅広い学年全体の授業で行うことにした。

●授業実践の成果●

教育課程毎の出題内容・・・ブータン文化を中心とした出題内容にした。児童の実態の幅があるため教育課程毎で出題内容を考えたおかげで、それぞれの課題の目標が達成しやすくなった。

教材・環境の工夫・・・わかりやすい提示のため写真を多く取り入れたり、スイッチ、ブータンシールを使うことで活動への興味につながった。Ipad のカメラボタンをタッチすることに困難がある児童が多いため、スイッチをつなげることで押しやすくなった。パネルシアターは、ブラックライトを使うことで重度の児童も注目しやすかった。MT の背景の色を統一することで、余計な情報が遮断され注目すべきところが児童にとってわかりやすかった。(背景にカーテンをひいた)

児童の興味・関心・・・重度の児童の中には、ブータン音楽が流れると身体の動きが止まり、聞き入っているような様子が見られた。また、「来年はどここの国やるの?」とブータン以外の国に興味をもったり、外国文化に触れる機会を楽しみにしたりする様子が見られた。「(テレビでブータンの特集を見て)ブータンだって気づいた!」という声もあった。ゲーム方式でブータンの文化について考えたり、民族衣装を着る経験をしたことで、児童の印象に残りやすく次への期待感も高まった。

●授業実践の課題●

ブータンについて「異文化体験」を中心とした学習を行った。ねらいにそった内容にしたつもりだったが、メインであるものしりゲームが3回設定だったのは重度の児童にとって短かったことと、6限目の内容を1回しかできなかったことは残念だった。基本的に同じ内容を毎回繰り返すが、児童の実態が幅広いため、児童によっては前回の授業から変化をもたせた指導対応をもっとするべきだった。

[7]参考文献(引用文献・参考資料)

・『平成 23 年度教師海外研修報告書』 JICA 地球ひろば

・『平成 25 年度都立特別支援学校教育課程編成の基本方針』 教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

[8]使用教材(写真/図などの実物)

授業の詳細等で紹介

[9]教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

以前から国際理解教育には興味があり、特別支援学校でもやりたいと考えていた。昨年度、初めて国際理解教育に携わった経験から、現地から学べることを全児童にどうやったら伝わりやすくなるのか考え始めるようになった。他校種の教員と共に過ごし、考え合うことで様々な国際理解教育の手法を学ぶことができ、特別支援学校でもできることを再考し共有できたことが今回の大きな収穫だと感じている。

今後は、過年度の教師海外研修に参加した特別支援学校の教員と情報交換をし、東京都の特別支援学校での国際理解教育普及に関われたらと思う。